

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：すいとぴー保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：江入 薫	定員（利用人数）： 60名 (利用者58名)
所在地：〒231-0821 横浜市中区本牧原1-11	
TEL：045-621-6001	ホームページ： http://swtphoikuen.com/top.html
【施設・事業所の概要】	
開設年月日 2013年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：有限会社Mサポート	
職員数	常勤職員： 12名 非常勤職員 8名
専門職員	園長 1名 主任 1名
	保育士 11名 保育補助 3名
	子育て支援員 2名 事務員 2名
施設・設備の概要	保育室 6室 トイレ 4ヶ所
	沐浴室 1ヶ所 調乳室 1ヶ所
	調理室 1ヶ所 事務室 1室
	園庭 有

③ 理念・基本方針

<p>【保育理念】</p> <p>：健康・安全に生活ができる環境を整え、情緒の安定を図る</p> <p>：子どもの個々を尊重して、事故を十分に発揮しながら活動できるよう育成し、心身の発達を図る</p> <p>：保育生活の中で社会性・協調性を養い、思いやりの心を育て、道徳性の芽生えを培う。</p> <p>【基本方針】</p> <p>：保育指針を遵守、養護と教育を一体とした保育を行う中で、保護者との緊密な連携のもと、大人との十分な愛着関係を形成していく。また、一人ひとりの発達課題を的確に把握し、その発達のプロセスを尊重しながら保育をしていく。</p> <p>：地域社会との連携を深め、子どもや保護者の姿を地域の中に見えやすくすると同時に、誰もが参画しやすい保育所作りをする。</p> <p>【保育目標】：心身ともにたくましく、よく遊ぶ子ども</p>

④ 施設・事業所の特徴的な取組

<p>園は、横浜市営バスの「本牧宮原」バス停より、徒歩1分の有料老人ホーム「すいとぴー本牧三溪園」の建物の1階に併設されています。近隣にはマンションが建ち並び、園の側には緑豊かな公園もあり閑静な環境の中にある園です。</p> <p>●特徴・・・6階建ての有料老人ホームの1階に併設されています。七夕会や敬老のお祝い会等各行事に合わせ入居者の方々と工作を楽しんだり、歌を歌ったり触れ合い</p>
--

の時間を積極的に取り入れています。また、幼児クラスからは、外部講師の指導による体操教室・空手教室・英語教室や年齢に合わせた文字・数のワークブック・製作など多彩なカリキュラムを導入しています。

<体操>鉄棒・平均台・マット運動・縄跳び・運動会指導等多くの種目を経験し、ルールを身につけます。

<英語>リズム遊び・身近な単語を楽しみながら身につけます。

<空手>体や精神を鍛え、礼儀や型を身につけます。

●屋外活動・・・小さいながらも園庭があり、ボール遊びや縄跳び、夏は水遊び等をして楽しんでいます。また、日々の遊びの行き来から、交通ルールやマナーを学んでいます。近隣の公園には、人工のせせらぎと遊歩道があり季節ごとの散策をしたり、小高い場所にある公園まで足を伸ばすなど、子どもの発達に合わせて公園を利用しています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和4年7月12日（契約日）～ 令和5年3月30日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（2017年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

1)豊富なカリキュラムとワークブック活動

幼児クラスでは毎週の「体操」、隔週の「空手」と「英語」のカリキュラムを取り入れ、子どもの育ちへとつなげています。「体操」では、できなかったことも繰り返し練習をすることで出来るようになる達成感を経験しています。「空手」では礼に始まり礼で終わるメリハリを学び、「英語」では英語を楽しみ、親しむことを経験しています。また、文字、数のワークブック、折り紙に興味をもって取り組み、知育につなげています。豊富なカリキュラムを楽しみながら学ぶことで、子どもたちの生きる力を育むことにつながっています。

2)周辺環境を生かして充実した戸外活動を行っています

園の周辺には、大きな公園や見晴らしの良い公園があり恵まれた環境のもと、子どもたちは主体的な目的を持った戸外活動をしています。広い公園では、鬼ごっこなどのルールのある遊びを通し、集団で遊ぶ楽しさを経験したり、社会性を学ぶ機会としています。自然あふれる公園で、落ち葉やドングリなどを拾ったり、虫や生き物を見つけて観察するなど様々な散策活動を楽しんでいます。戸外での活動は、身近な動植物に接して、季節を感じ、生命の尊さに気づき、労りや大切さに気付く機会としています。

3)高齢者との交流を通して年長者を敬う心を育てています

園は高齢者施設に併設されており、交流がしやすい環境です。現在はコロナ禍で、なかなか交流の機会が作れない状況ですが、以前は子どもたちが歌を披露したり、七夕行事の際には利用者と一緒に天の川を共同で制作をするなど盛んに交流が行われていました。子どもたちにとっては利用者に接することが思いやりの心を育む機会となり、利用者も子どもたちと触れ合うことでよい刺激となって精神的な活性化につながると考えられます。今後も感染状況を考慮しながら、積極的に交流を続けていきたいと考えています。

4)保護者とのコミュニケーションの充実が期待されます

保護者とのコミュニケーションを大切にし、家庭との連携に努めていますが、コロナ

禍で、玄関対応や行事の制限など通常よりも保護者と関わる機会が減っています。そのため、意見の言いやすさ、相談対応等についての保護者理解が十分ではありません。日常的なコミュニケーションや体制を充実させ、信頼関係を深めることが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

これまでは自己評価に対し、手さぐり状態ではありましたが、状況を分析し自分たちなりの改善に努め保育運営をしてきました。

しかし、今回、たくさんの評価項目毎に調査をすすめていく中で、事業所としてあるべき姿、現状の不十分な状況を再確認し、改善すべき点などの気づきに役立ちました。

今回の評価を受け、課題となる項目が明確となり、子どもたちの健やかな成長のための環境はいかにあるべきか、どのような姿勢で保護者の皆様と向き合う事が望ましいか、地域密着の保育園とはどのような連携を目指せば良いか、不足の部分に関しては改善の方向で着手していきたいと考えております。

保護者の皆様にはお忙しい中、アンケートへのご協力を頂きありがとうございました。今後も保護者の皆様と力を合わせ、子どもたちのためにより良い保育を提供できるよう職員一同努力をいたします。

この度は様々なご教示をいただき、有意義な機会を得られましたことに、感謝いたします。ありがとうございました。

最後に、今回の評価にご尽力いただいた調査員の方々に心より感謝申し上げます。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり